

## 授業冒頭の重たい空気をどう打破する？

神谷 和宏

授業開始の数分間は、雰囲気づくりで欠かせない時間です。ズーニン（米心理学者）は「物事の印象は最初の4分で決まってしまう」と言っています。授業の冒頭で生徒に“おもしろそうだな”“わかりやすそうだな”といった好印象をもたせることで、その後の授業がとてつもなく円滑に進むものです。反対に、“退屈そうだな”“難しそうだな”などと悪印象を与えてしまうと、その後挽回することは非常に困難になります。

そこで私は、授業開始の4分間にアイスブレイクとして、「前時の授業」を行っています。これは、となり同士が二人一組になり、前時の授業をふり返るといふものです。最初の2分で、一方の子どもが重要ポイント、キーワード、わからなかった点などを話します。重要なのは、もう片方の子どもです。相づちを打ったり、うなずいたりしながら最後まで傾聴させます。場合によっては、質問をしてもよいことにします。残り2分で交代し、時間がくればたとえ話が続けていても終了します。

また、「教室の四すみ」という方法もあります。例えば、授業開始時に「双曲線のグラフの特徴は何ですか？」という質問をします。そして、教室の四すみに「よくわかった」「なんとなく」「あまり」「わからない」と書いた紙を貼っておき、そこへ子どもが移動します。そして、集まった子どもがそれぞれ、なぜそう思ったのかを一言ずつ話していき、考えを共有します。他にも「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらかと言えば反対」「反対」や、「はい」「いいえ」「どちらとも言えない」などの区分もできます。

このようなアイスブレイクを行うことで、前時の復習をすることが出来ます。また、“友だちも自分と同じことを考えていたんだ”という安心感も生まれます。こうして授業全体に活気が生まれ、重たい雰囲気から開放されます。

(愛知県刈谷市立かりがね小学校)